

事例番号:310167

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第七部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

2 回経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 36 週 3 日

12:30 トイレで 1-2L の性器出血あり

12:35 意識消失

12:49 救急隊が自宅に到着、血圧 80mmHg 台、脈拍数 130 回/分

13:10 当該分娩機関に到着、血圧 65/42mmHg、心拍数 140 回/分

13:17 血液検査でヘモグロビン 8.5g/dL

13:20 胎児心拍数陣痛図で徐脈を認める

#### 4) 分娩経過

14:00 原因不明の出血性ショック、胎児機能不全の診断で帝王切開により  
児娩出

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:36 週 3 日

(2) 出生時体重:2631g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.678、PCO<sub>2</sub> 104.7mmHg、PO<sub>2</sub> 85.2mmHg、

HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 7.3mmol/L、BE -27.8mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 1 点、生後 5 分 4 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 重症新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

生後 6 日 頭部 MRI で大脳基底核・視床に信号異常

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 3 名、小児科医 3 名、麻酔科医 1 名

看護スタッフ: 助産師 4 名、看護師 3 名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、胎児低酸素・酸血症によって低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考えられる。

(2) 胎児低酸素・酸血症の原因は、母体の出血性ショックをきたしたために母体循環動態の変化(循環血液量の減少等)が生じ、子宮を介して絨毛間腔に流入する血液量が減少したことによって、子宮胎盤循環不全が生じた可能性がある。

(3) 出血性ショックの原因と考えられる子宮出血の原因は不明である。

(4) 胎児低酸素・酸血症の発症時期については特定困難であるが、意識消失となった妊娠 36 週 3 日 12 時 35 分以降の可能性はある。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 36 週 3 日の妊産婦からの電話連絡への対応(持続する出血の訴えに対して、異常出血と判断し受診を指示したこと)は一般的である。

(2) 受診時の対応(超音波断層法実施、血液検査、内診、分娩監視装置装着等)は一般的である。

(3) 13 時 23 分に原因不明の出血性ショック、胎児機能不全の診断で帝王切開を決

定したこと、帝王切開決定から 37 分後に児を娩出したことは一般的である。

(4) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

(5) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

### 3) 新生児経過

(1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管)は一般的である。

(2) 重症新生児仮死のため、高次医療機関 NICU へ搬送したことは一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

なし。

#### (2) 国・地方自治体に対して

なし。